

産業クラスター施策の概要

産業クラスター政策は、地域の企業、大学、研究機関、産業支援機関等の産学官等が広域的なネットワークを構築し、企業間連携・産学連携等によって技術・ノウハウ等の知的資源等を相互活用して、地域の強みを活かした新産業・新事業が創出される内発型の発展を目指す政策。



企業・大学・金融機関・産業支援機関等が個別に存在



クラスターマネージャーのコーディネートによりネットワーク化し、新事業・新産業を創出

事例

◆関西バイオクラスタープロジェクト

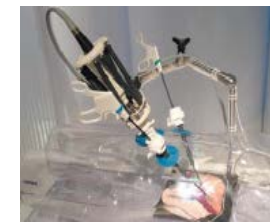
○企業約460社、京都大学・大阪大学・神戸大学・奈良先端科学技術大学院大学等の大学、公的研究機関及び大阪市・京都市・神戸市等の自治体とのネットワークを形成。

○当クラスターでは、技術シーズとニーズのマッチングだけにとどまらず、弁護士・公認会計士・弁理士等からの適切なアドバイスや販路開拓支援などを実施。



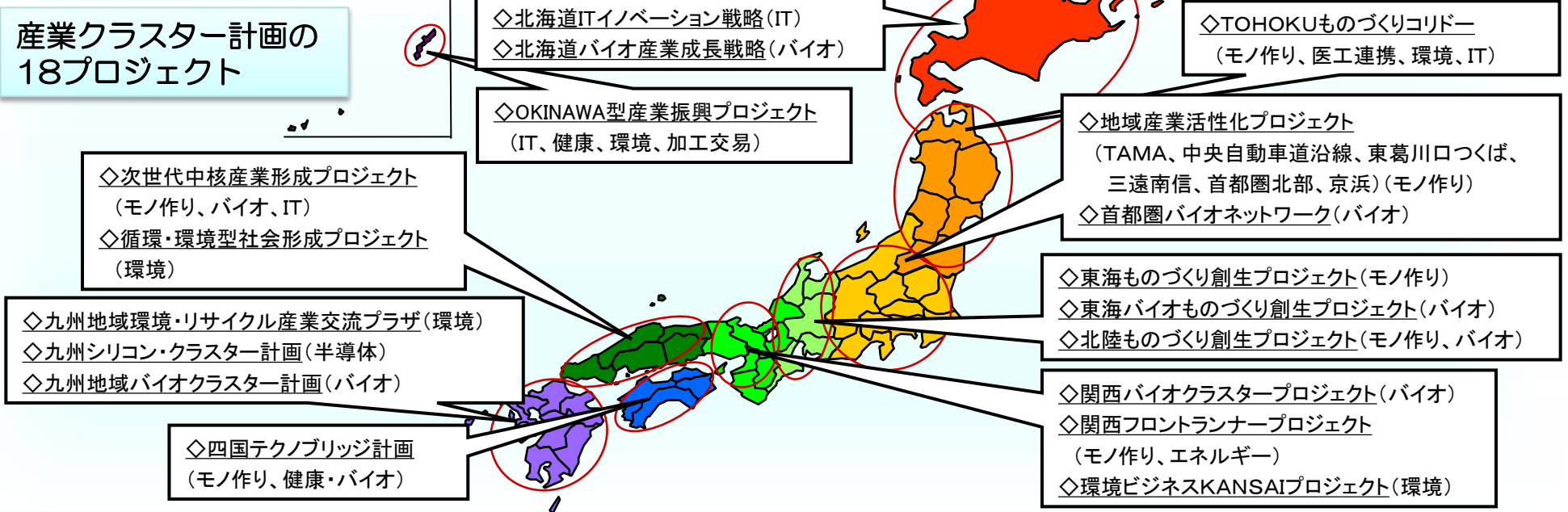
【成果事例：内視鏡手術ロボットの開発】

- 当クラスターの会員である大研医器(株)と大阪大学が、クラスター内でのマッチングを経て2006年から共同開発を開始、2008年に試作が完成する。
- 現在、同社と信州大学で実用化に向けて製造の低コスト化・衛生面の改良等をしている。豚の手術には成功し、現在更に改良を重ねており、2013年中に治験の開始を見込んでいる。
- 価格は、導入時に数百万、手術ごとの交換機器が数万～10万円程度と見込んでおり、現在世界的に内視鏡手術に用いられている米国製ロボット「ダ・ヴィンチ」の価格(約3億～3億6千万円)に比べて安価であり、早期の実用化が期待されている。

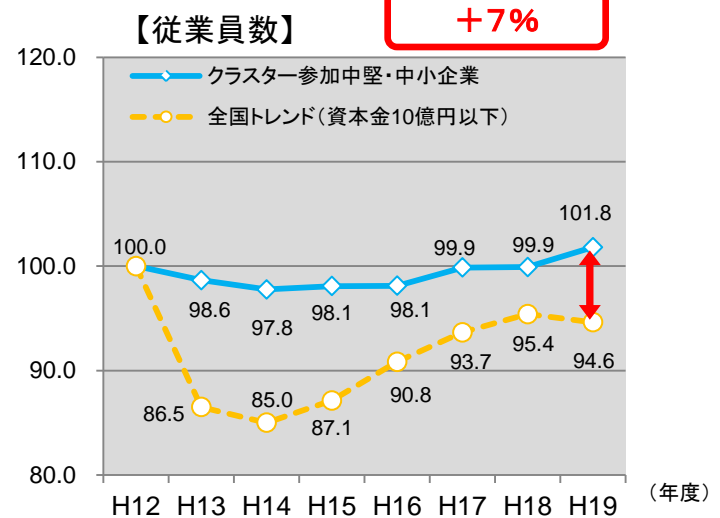
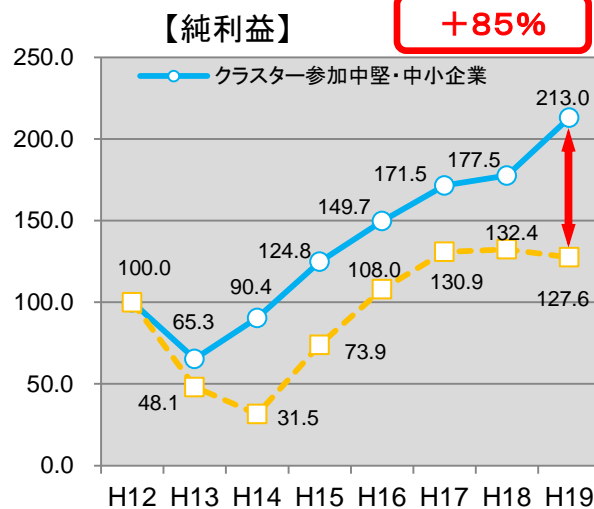
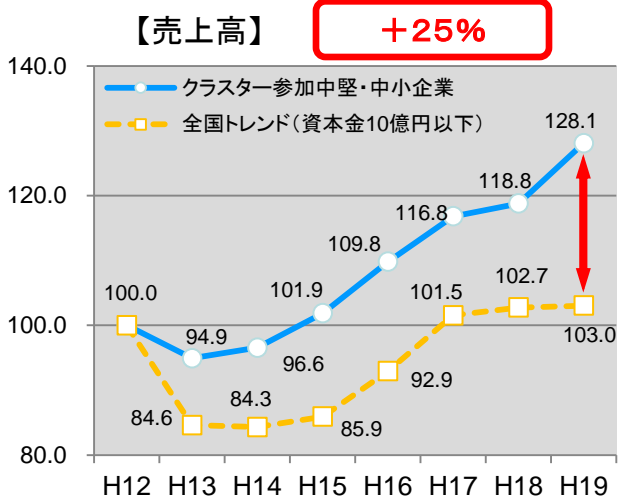


これまでの産業クラスター計画の状況と成果 (2001年~2009年)

産業クラスター計画の 18プロジェクト



参加企業の業績の推移 → 参加企業は全ての指標で全国平均を上回っている



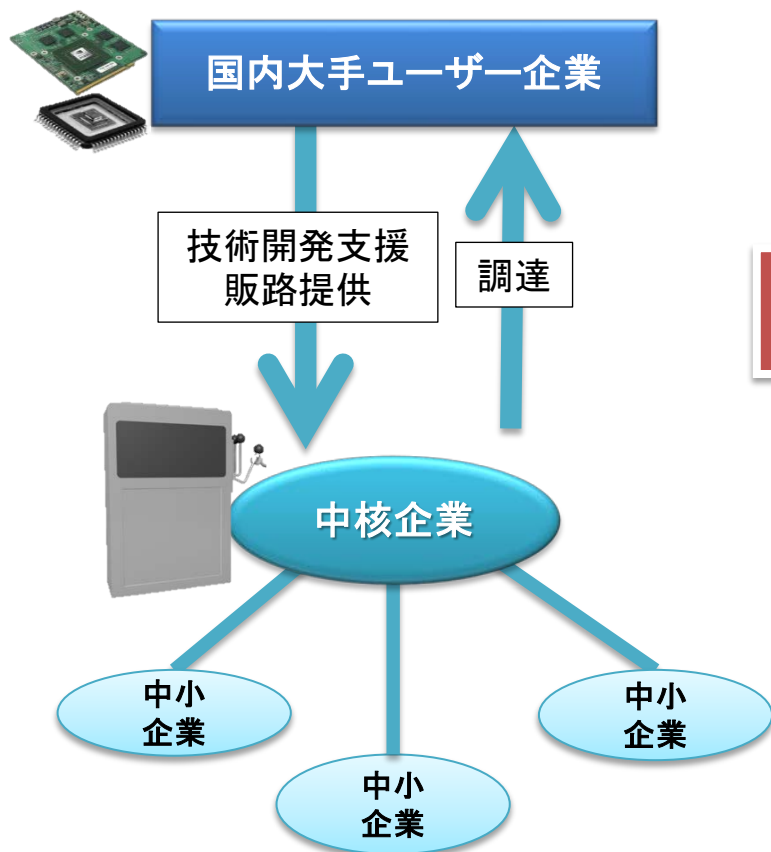
(※) 毎年度実施していたクラスター計画に対するモニタリング調査(参加企業に対するアンケート調査等)に基づく分析結果による。

構造変化①

【国内大手ユーザー企業が撤退したことによる取引先の消失】

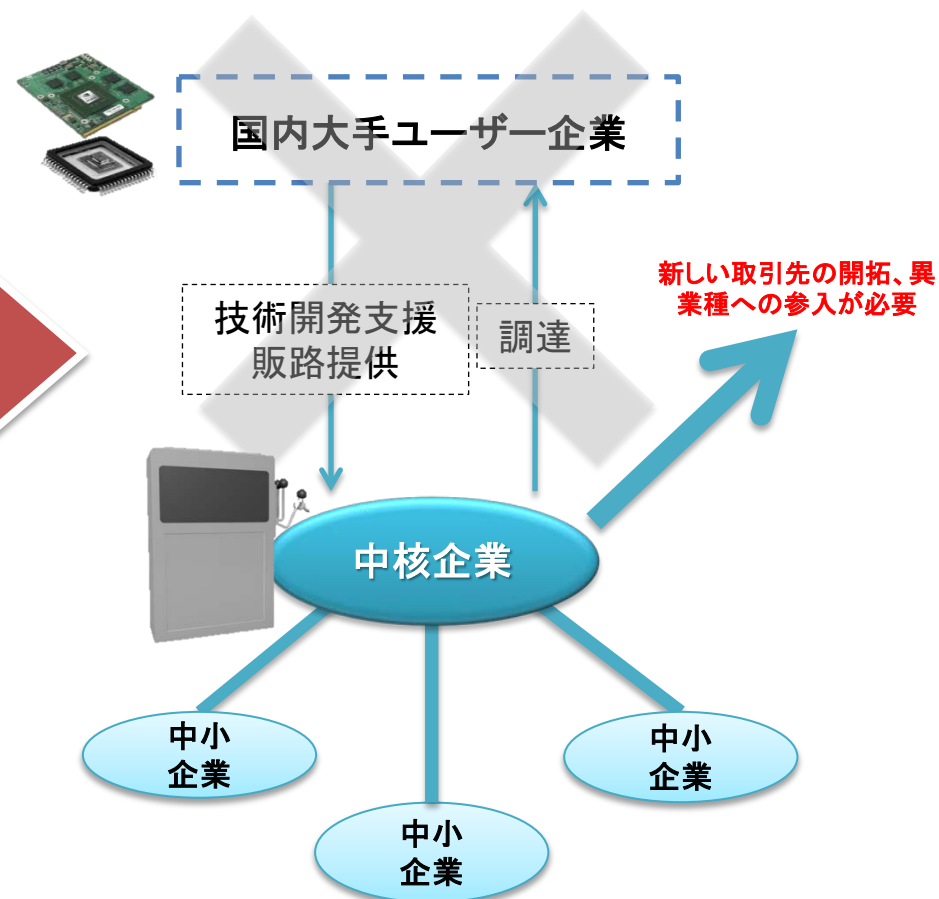
従前

- 国内に大手ユーザー企業が立地。
- 地元中核企業及び中小企業は、その大手ユーザー企業を主たる取引先としていた。



現状

- 地域の主たる取引先である大手ユーザー企業が、撤退したり、海外生産比率を上げたことにより、地元企業との取引が終了。



構造変化②

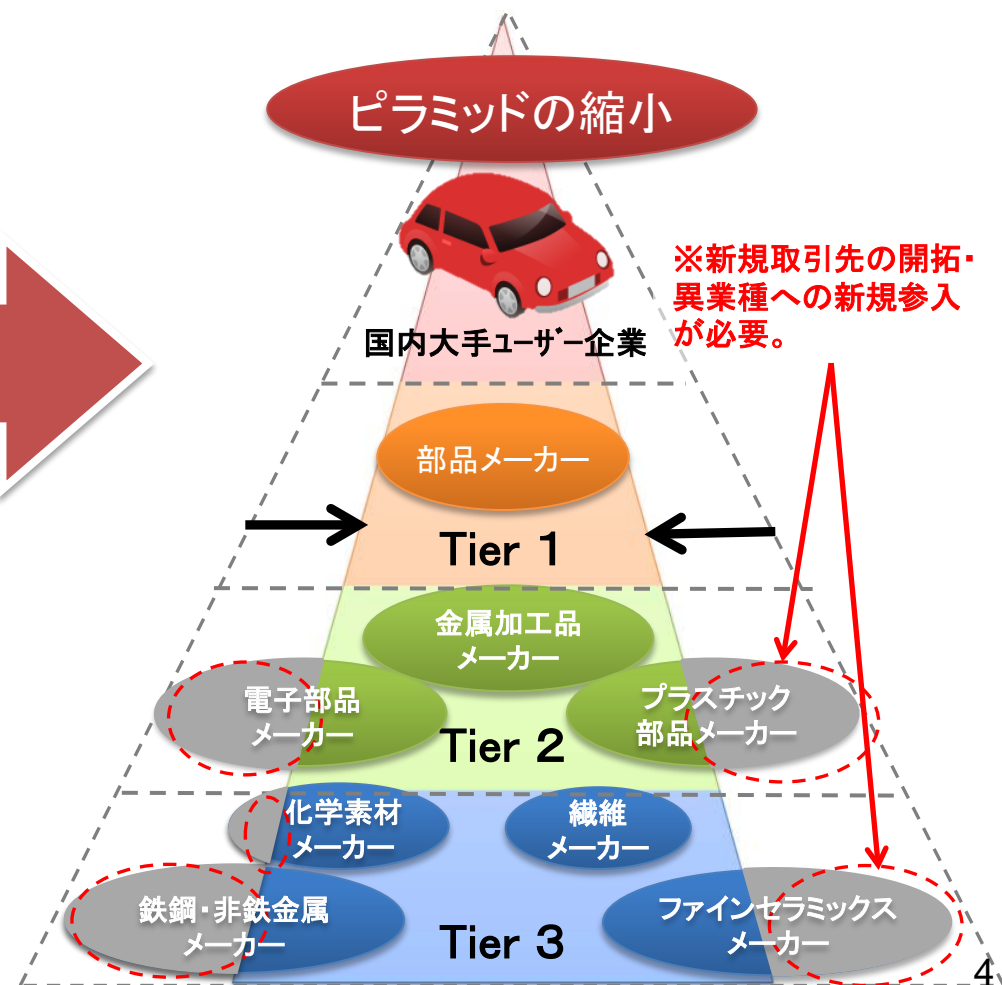
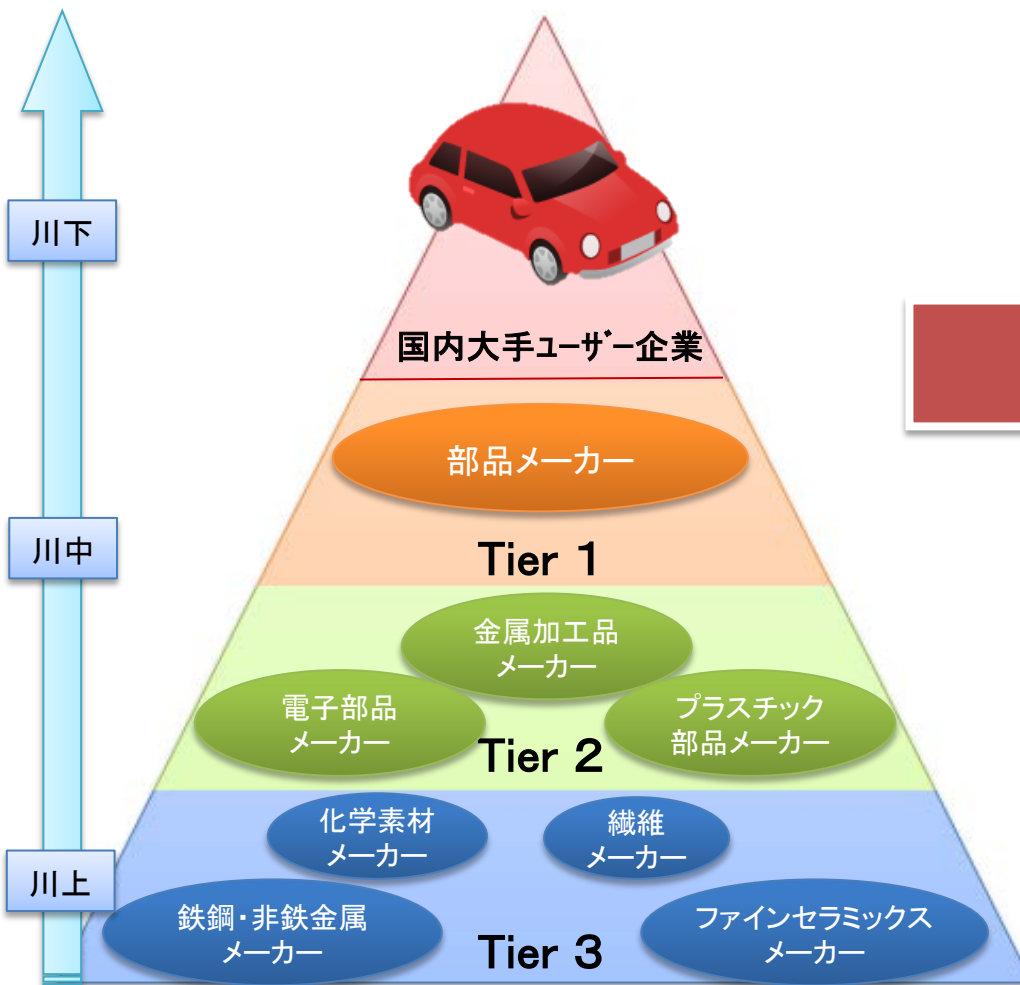
【国内大手ユーザー企業を頂点とするピラミッドの縮小による取引の減少】

従前

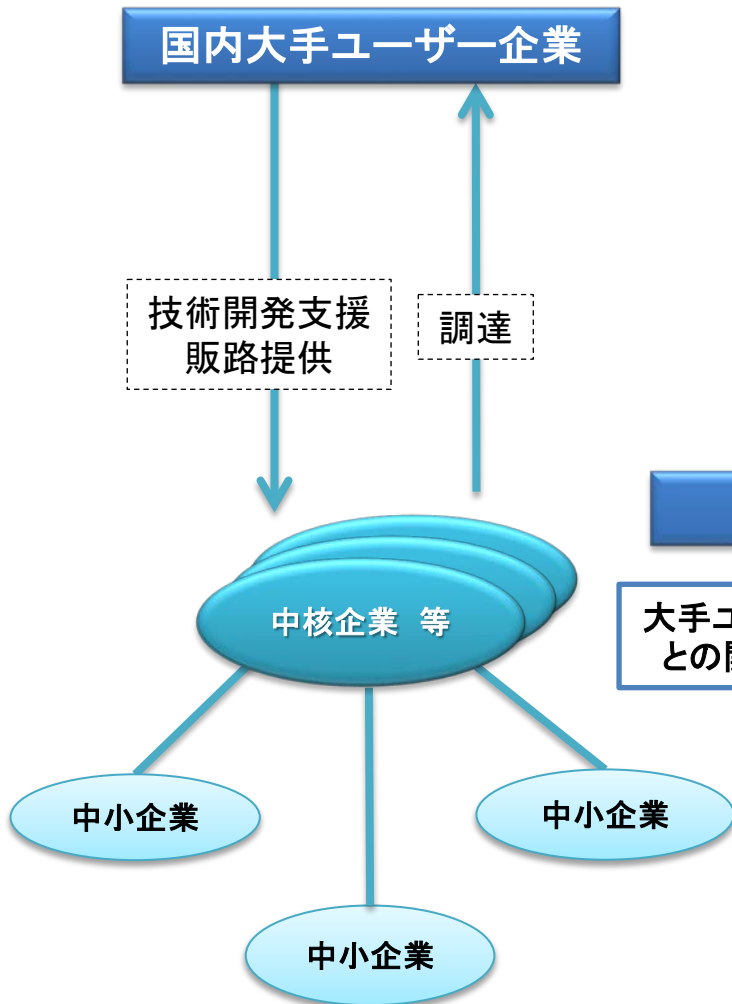
現状

国内大手ユーザー企業を頂点として、地域企業はピラミッド構造を構築。

国内大手ユーザー企業が海外生産比率を上げたり、部品点数の絞り込みをしたことにより、ピラミッドが縮小し、地域企業との取引が減少。



従来の系列関係



クラスターの構造(クラスターマネージャー主導型)

